

第二回足立区ギャラクシティ運営評価委員会議事録

会 議 名	第一回足立区ギャラクシティ運営評価委員会		
開催年月日	平成 25 年 9 月 10 日 (火)		
開催場所	こども未来創造館 2階 わーくしょっぷスタジオ		
開催時間	10時00分開会～12時00分閉会		
出欠状況	委員現在数	9名	
	出席委員数	9名	欠席委員数 0名
出席者(敬称略)	出席	委員長	平沢 茂 (文教大学教授)
		委員	吉井 謙 (東京大学教授)
	欠席	委員	山田 心 (認定 NPO 法人 日本グッド・トイ委員会法人運営部長・東京おもちゃ美術館員)
		委員	伊東 正示 (東京理科大学非常勤講師 株式会社シアターワークショップ代表取締役)
		委員	鈴木 春男 (足立区少年団体連合協議会副会長)
		委員	青木 信夫 (足立区小学校PTA連合会会長)
		委員	稲塚 由美子 (ミステリー評論家・翻訳家・現在足立区民生委員)
		委員	染谷 江里 (一般公募)
		委員	坂田 卓也 (一般公募)
事務局	子ども家庭部青少年課	課長	大谷 博信
	青少年課ギャラクシティ支援担当	係長	茂木 聡直
	青少年課ギャラクシティ支援担当		首藤 美奈子
	青少年課ギャラクシティ支援担当		照屋 良太
	青少年課青少年教育担当	係長	村上 長彦
	地域のちから推進部地域文化課	課長	松野 美幸
	地域文化課文化団体支援係	係長	古川 裕子
	地域文化課文化団体支援係		榎本 佳菜
指定管理者	ギャラクシティ館長		氏家 豊
	ギャラクシティ副館長		上遠野 めぐみ
	ギャラクシティ副館長		鈴木 敏之

<p>会 議 次 第</p>	<p>1. 開会  2. 委員長挨拶  3. 指定管理者提案書説明  4. 施設評価のあり方について意見交換  5. 次回の日程調整</p>
<p>配布資料</p>	<p>資料1 次第と委員名簿  資料2 足立区ギャラクシティ運営評価委員会公開規定  資料3 第一回足立区ギャラクシティ運営評価委員会議事録（案）  資料4 施設評価の全体的な方向性レジュメ  資料5 ギャラクシティ運営評価委員会総合評価結果（事務局案）  資料6 ギャラクシティ運営評価委員会評価表（事務局案）</p>

<p>大谷課長</p>	<p>&lt; 1 . 開会 &gt;</p> <p>開会前に、まずは本日の資料の確認させていただく。次第の他、資料 2 から資料 6 まで用意している。その他、あだち未来創造ネットワークからの資料が 1 つあるので、確認いただきたい。</p> <p>また、資料 3 は前回の会議録となっているので、修正点などあれば 9 月 3 0 日までに事務局に連絡いただきたい。修正後に公開する。</p> <p>そして、資料 2 にギャラクシティ運営評価委員会公開規程があるが、第一回の時にご意見をいただいたとおり、第 7 条については「報道関係者の入場については、委員長などの長による許可を必要とする。」から、「報道関係者の入場については、委員長などの長に事前に確認をする。」に修正した。問題がなければこちらの規定に従って運営評価委員会を公開したいと考えている。</p> <p>また最後になるが、毎日新聞社の青野委員は運営評価委員会をご辞退された。今後は評価委員としてではなく、専門的な見地からご指導ご相談をいただきながら、運営していきたい。事前の説明は以上です。</p> <p>(傍聴人入場)</p> <p>それでは、第二回足立区ギャラクシティ運営評価委員会を開会させていただく。まずは委員長挨拶をお願いします。</p>
<p>平沢委員長</p>	<p>&lt; 2 . 委員長挨拶 &gt;</p> <p>皆様、毎回ご足労いただきありがとうございます。これから議論に入っていくので、活発なご意見を頂戴したいと思います。よろしくをお願いします。</p> <p>早速今日は重要な案件が 2 つほどあるので、進めて参ります。最初は、指定管理者の提案書に基づいて今どんなことをしているのか、説明をいただきたいと思います。</p>
<p>氏家館長</p>	<p>&lt; 3 . 指定管理者提案書説明 &gt;</p> <p>あだち未来創造ネットワーク提出資料に基づき、ギャラクシティ運営方針に関する説明。</p> <p>「心はこども、腕はプロ」の管理運営理念に基づき、遊びながら学ぶことのできる施設を作っていく。また、多くの皆様との協働により、下記 5 つの方針に従って多彩な事業を展開していく。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 . 連携と協働によって常に新しい事業を開発</li> <li>2 . 「目標と成果」を意識した事業の立案と改善</li> <li>3 . ステップアップしていけるしくみづくり</li> <li>4 . ここにしかない一流・本物・本格的な遊び・体験を提供</li> <li>5 . “あだち”ならではの足立らしい特徴のある事業の展開</li> </ol> <p>これらの方針に基づき子どもたちがたくましく生きる力を育み、“あだち”ブランドを向上し</p>

鈴木副館長	<p>ていく。また、管理運営体制は館長・文化事業副館長・こども体験事業副館長のもと、豊富な経験を持つスタッフとともに専門性の高い事業を展開していく。</p> <p>あだち未来創造ネットワーク提出資料に基づき、こども体験事業に関する、基本的な考え方についての説明。</p> <p>大切なのは、なによりこどもが楽しいこと、遊びを通して成長していけることである。“あだち”ならではの体験でこどもを育み、みんながつながり成長していける事業を展開していきたい。方針は5つある。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. いつでも、だれでも、色んな楽しみ方ができる。 一人でも来ても、大勢でも来ても楽しめるようなふさわしいメニューを提供する。また、日・週・月替わりで四季折々の多彩なプログラムを提供するとともに、継続的・連続性のあるプログラムを展開する。</li> <li>2. つながる・ひろがる・ステップアップしていける。 興味の進路に応じて事業を展開していく。入門・中級・上級編など進路に合わせて展開していく。</li> <li>3. 一流・本物・本格的な体験ができる。 学研や東大などの一流機関や、足立区ならではの伝統産業などとの連携を深めている。</li> <li>4. 成長がわかる、目標を持てる、仲間が増える。 「ほうかごガレージスタンプカード」を発行し、自分の体験を視覚化し、こども達のやりがいを喚起している。また、夏と春の「ギャラクシティフェスタ」では、こども達がその場で発表をし、繋がりを持つことができる仕掛けを考えている。</li> <li>5. 「ねらい」と「効果」を意識して組み立てる。 知識・技能・意欲・発想の4点に基づいてプログラムを作り、記録し、効果を測定していく。</li> </ol> <p>その他、こども体験事業を「遊び・創造・科学」・「運動」・「幼児・親子」・「アウトリーチ」・「マルチ体験ドーム」の枠組みごとに、プログラムの実例を数点ずつ紹介。</p>
上遠野副館長	<p>あだち未来創造ネットワーク提出資料に基づき、文化事業に関する、基本的な5つの考え方についての説明。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 安心・安全・快適に楽しめる場 お子様連れでも親しみやすい空間を提供していく。</li> <li>2. 地域みなさんとステップアップ 区民の皆様の活動の場となるよう、一緒に創りあげていく。</li> <li>3. 出会いと交流から生み出す文化芸術の力 子どもたちのワークショップや交流の場を提供していく。</li> <li>4. みんなでつくる“あだち”の文化芸術 足立区にゆかりのあるアーティストや区民の皆様、施設スタッフが一緒に文化を創</li> </ol>

	<p>りあげていく。</p> <p>5. 新しい感動を共有 質の高い、親しみやすい文化芸術を提供していく。</p> <p>その他、「子どもが体験できる」・「区外からも集客を見込む」・「地域に愛される」を軸とした文化事業内容の実例を紹介。</p>
平沢委員長	<p>ありがとうございました。今のご説明を評価の中身に活かしていきたいと思います。何かご質問・ご意見はありますか。</p>
稲塚委員	<p>子ども体験事業の社会体験のところにある、こどもハローワークなどの事業においては、チューターをつけたりはしているのでしょうか。</p>
鈴木副館長	<p>チューターという形ではないが、実際の職人さんに来ていただき、子どもたちに指導している。その他、スタッフがアシストしながらプログラムを進めている。</p>
稲塚委員	<p>それでは、「あだち探検隊～オリジナルガイドマップをつくろう！～」のような時には、どのように活動するのでしょうか。</p>
鈴木副館長	<p>こちらはこれからの検討ではあるが、我々職員も当然参加するし、足立区内で活動されている専門の団体の方などにご協力いただきながら、やっていきたいと考えている。</p>
稲塚委員	<p>子どもが行きたい場所を街案内するような展開もあるのでしょうか。</p>
鈴木副館長	<p>そういうことも考えられる。西新井周辺の団体の方に協力いただいて、街歩きをする計画も考えている。</p>
稲塚委員	<p>それは、大人の方も可能ですか。</p>
鈴木副館長	<p>今のところ、保護者と子どもを対象に考えており、子どもがいないと参加できない。大人を対象としたプログラムは今後の検討課題だが、今現在大人向けのプログラムはクライミングウォールやプラネタリウムで行っており、需要があれば今後も検討していく。</p>
稲塚委員	<p>「わんぱく・遊びプログラム」では子どもたちが走り回っている写真が載っているが、昔ながらの缶蹴りなどをやっているのでしょうか。</p>
鈴木副館長	<p>写真は鬼ごっこをしている写真である。その他、現在は竹馬やフラフープなどを提供している。</p>
稲塚委員	<p>外のスペースはいろいろ利用方法があると思うが、屋外コンサートのようなこともできるのでしょうか。</p>

鈴木副館長	近隣の方のご協力を得なければいけないが、そういう可能性もあると思う。
平沢委員長	他の方、何かありますか。
伊東委員	<p>私は指定管理者を選定するときの委員でもあったので予備知識があるが、評価はどういうものかを考えると、どういう要求を足立区が出し、どこまで答えたのかという点に評価があると思う。今のご説明は指定管理者側の方針・やったことを交えて説明していただいたのだと思うが、この委員会としては区の側の要求との比較で考える必要があるのではないかと考えている。</p> <p>また運営評価としては、施設維持管理と事業運営の両方を指定管理者が担っていると思うが、先ほどは事業を中心に説明いただいたが、管理の方面はどうなのか。例えば利用率や経費が定量的な評価になると思う。これらは委員会として審議する項目なのでしょうか。</p> <p>またそのようにしてみると、体制表の文化事業の下には技術管理部門がなく、全体の維持管理がこども体験事業側に入っている。技術面で文化ホール側にどれだけ協力することができるのか。</p> <p>そして、サービスの拡大に伴って適切な経費対効果が実現されているのか。</p>
平沢委員長	今日はこの後、ご指摘のような評価の具体的な項目等についての検討があります。本日の説明については、それに入る前のごく予備的な説明とご理解ください。次回は指摘いただいたような細部に渡る説明の機会があると思いますが、それでよろしいですか。
茂木係長	はい。
平沢委員長	それでは、今ご指摘の点は次回にまとめて検討したいと思います。大変重要なお指摘でしたので、指定管理者の方も次回のご説明の時には今挙げたような資料を揃えていただきたいと思います。
氏家館長	はい。承知しました。
坂田委員	利用者の立場からお話させていただきたいと思う。夏休みに子どもと一緒に来館して頑張りが見えるスタンプカードをもらい、リピートを施すという点で非常に良いと感じたが、この他にリピートを促すような施策はあるのかどうか。
鈴木副館長	今後詳細を詰めていかなければいけない点であるが、やはり連続性のあるプログラムを作ることがポイントだと考えている。1回完結のプログラムも大切だが、深めていくという点では連続講座も重要だと考えている。
坂田委員	今日の話聞き、連続講座で子どもを成長させていくという内容はすごく良いと感じている。ポイントカードだけでなく、リレーションマーケティングのような形で、メールでお客様に合う告知をすとか、小学校を媒体として活用して関係性を作り、リピートを増やすような施策をしないともったいないと感じた。また、現在アンケートなどでお客様の地域は把握

	しているか。
鈴木副館長	足立区内・足立区外（都内）・その他で集計している。
坂田委員	地域的なアンケートをより細分化し、足立区内でも少し遠いところの人に向けた訴えかけも必要なのではないかと感じた。 またもう1点、文化事業の方について私は非常に興味があり見させていただいているが、少々お高い感じがする。この点に関して、値段に関するアンケートなどは取っているのか。
上遠野副館長	項目としては用意していないが、自由記入欄に「値段の割には物足りない」「非常に満足」などの意見をいただくこともある。この点の捉え方は難しく、課題に上がっている点である。
坂田委員	子どもに一流のものを見せて成長させるという点を重視しているのだと思う。しかし一方で、例えば4人家族で3,500円の講演となると、気軽に行くことは難しいなと区民として感じた。
吉井委員	本日の説明は、この未来創造館でどのようなことをやるかということを繰り返し述べられただけのような感じがする。委員の皆様にも全体的な情報を入れることは良いことであるが、評価会であることを意識したプレゼンをやりたいと感じる。4月から5ヶ月経ち、目標設定やスケジュールに基づきどのような効果があったのか、時間の系列が見えるようなプレゼンがあるとありがたい。いろいろなプログラムをされているのは敬服の至りであるが、例えば各事業で何人程度のスタッフで検討した結果、どのようなコストと受益者数があったのかなど、定量的な数字がないと評価できない。また、文化事業と子ども体験事業は別々にお話しになったが、この2つの連携についてどのようにコミュニケーションをとっているのか。具体的にどうされているのかが見えてこない。
平沢委員長	私も2つが分離しているように見えるので、そのブリッジが説明からでは見えてこない。次回は事務局との打ち合わせの上、数字の部分を出していただき、評価項目の参考とさせていただきたい。
氏家館長	はい、承知しました。
平沢委員長	次の議論に関わる部分も出てきたので、この件に関してはこの辺りで切り上げたいと思う。 4番目の施設評価のあり方について、事務局側にご用意いただいた資料を基に議論して参りたいと思う。  (指定管理者、退場)  < 4 . 施設評価のあり方について意見交換 >
茂木係長	事務局から、評価案について説明させていただく。資料4・5・6に沿って説明。

	<p>資料4は、本日の打ち合わせ資料。  資料5は、評価委員会の最終結果を区民に公表する際に使う、事務局案。  資料6は、評価項目に沿う採点表の事務局案。</p> <p>まずは資料4に沿って確認させていただく。</p> <p>1. 評価の範囲  評価の範囲は、大まかには下記5点の指定管理業務の範囲である。  (1) 取り組み方針の推進  (2) 公共施設として求められる行政サービスや接遇  (3) 子ども体験事業  (4) 文化事業  (5) 広報事業</p> <p>2. 全体の方向性  本日はこちらについて、皆様に重点的に意見をいただきたい。例えば「指定管理者を育成するスタンスで評価する」・「短期的評価（毎年実施）と長期的評価（2～3年のスパンで実施）を設ける」・「利用者満足度を活用する」など全体的な方向性を検討したい。</p> <p>3. 評価分野・評価項目・評価指標  資料5「ギャラクシティ運営評価委員会総合評価結果（事務局案）」に基づいて説明。  評価項目毎に皆様に点数で採点していただき、その得点比率を出してABCDの4段階評価でいきたい。所見についても評価項目毎にまとめ、最後に総合評価を出して区民の皆様公表したいと考えている。具体的改善点や課題などを盛り込み、フィードバックしたいと考えている。</p> <p>資料6 ギャラクシティ運営評価委員会評価表（事務局案）に基づいて説明。  実際に皆様に採点していただき評価表の案である。最終的に5段階で評価する根拠として、指定管理者へのヒアリング・指定管理者自己評価・教育委員会もしくは足立区事務局評価・アンケートまたはモニタリング調査結果の4点を載せている。これらを踏まえ、委員の皆様各項目を評価していただきたいと考えている。この評価表は叩き台なので、項目を多めに提示しているため、評価項目や判断基準について幅広いご意見をいただきたい。</p>
茂木・古川係長	資料5に基づき、各評価項目を大まかに説明。
平沢委員長	今後項目の検討に入るとのことだが、先ほどご指摘あったとおり、まず足立区側が指定管理者側にどのような要求水準があったのかという項目や水準資料のようなものはありますか。
茂木係長	前回大まかに説明差し上げたのみで、今回新たにまとめた資料は用意していない。



平沢委員長	次回はできましたら、予算などについては特に適当に評価するわけにはいきませんから、そのような資料を用意していただきたい。行政・指定管理者間の中身について、今日は細かく議論しないにしても、事務局に提案していただいた項目について雑駁なご意見を頂戴したいと思う。
鈴木委員	タイムスケジュールについてだが、最終評価はいつまでに出せばよいのか。
茂木係長	みなさんに3月に評価していただき、5月に最終確認とさせていただきたい。
鈴木委員	それまで中間評価はない？
茂木係長	はい。スケジュール的には、今回・次回・次々回で皆様のご意見をいただいて資料5・資料6をまとめたいと考えている。
鈴木委員	先日施設を確認させていただいたが、外から5分や10分程度見た程度では実態をつかむことは難しいので、利用者の感想等の実態を知る方法はないのか。また安全性について、館内での事故やその対応について、子ども施設としては一番気にかかる場所なので聞かせてほしい。具体的に言うと、クレームが一番大事であると思うので、その部分について対応を含めて包み隠さず報告いただければありがたい。
平沢委員長	今日は第一読解ということで非常に大雑把な議論だが、次回は事務局の方でご尽力いただき、利用者からの声の項目の中に反映されているのかどうかを委員が知っていると言論が深まると思うので、資料作り大変だとは思いますが、それらしい資料作成をお願いしたい。
茂木係長	はい。
平沢委員長	それでは、他にはどうですか。
伊東委員	評価委員になった責任をひしひしと感じている。具体的になればなるほどこれは大変だと考えている。項目が多くなればなるほど書けないような気がしてくる。ざっくりと大きな枠で括ったほうが評価を書きやすいのではないのでしょうか。 それから、評価の5段階制の評価についてですが、これは3が基準となるのでしょうか。
平沢委員長	最終的な評価はABCDとなっていますね。私たちが5段階で評価するというのは、少し難しいかもしれませんね。
伊東委員	例えば取り組みが実施されていた時に、出来ていた場合は3なのか、5なのか。それから、1というのはなかなか付けられないために、5も付けにくくなる。そうすると2・3・4から選択することになり、振れ幅が狭くなる。よくやってもせいぜい4しか付けられないとすると、全て4をつけても最終評価で75% = B評価にしかならなくなってしまう。そういう風な基準でよいのかどうか。

平沢委員長	通常だとABC評価かなと感じる。要求する水準に達している場合はB、大幅に上回る場合はA、ちょっと達していない場合はC、というのが一般的ではないか。今までのご意見をまとめると、私たちは5段階評定を出来るほど日常を見られていないから、もう少しデータを出していただいてABC評価で行くのはどうか。また、事務局段階での評価を事前に出していただき、それに対して私たちが質疑応答をして最終的な評価を決定するという方法もある。今の段階だとデータが無さ過ぎるのでなんともいえないが、今のご意見の中で重要なポイントの1つは、あまり細分化された項目だと責任を持った評定をしにくいという点については、ご勘案いただいた方がよいと思う。それから、指定管理を決めた時の資料については、お出しいただいた方がよいと思う。
吉井委員	それがないとなかなか話が進みませんね。
平沢委員長	そうですね。次回にはそれがあった方が、1月に枠が固まり、3月に評価ができることになると思うので、是非ご協力いただきたい。指定管理を選定する委員会の時の資料はありますよね。それを是非お願いします。
茂木係長	はい、わかりました。
平沢委員長	他にこの段階でご意見、ご質問などありますか。
吉井委員	全体の枠としてこれだけ多いという話だが、例えばこれを最終的に報告するのは3項目とかでよいかもしれないが、その前段階でこのくらいの細分化された項目がないと話ができないのではないかと思う。ここで議論するときにはこの項目で多いのか少ないのかはわからないが、とにかくそういうのがあって、ここで議論された上で、外に出すときには個数を減らして大雑把にするなどの言う方法もある。
平沢委員長	項目としてある程度見ておいて、最終的にまとめることもできますね。となると、お出しいただいた項目についてこの段階で、ご意見ご質問があれば伺っておきたいと思う。
伊東委員	指定管理者を選ぶ時の作戦であるが、専門外の項目はやはり評価できない。そして評価できないときは3に入れて、差を付けないでくださいという風にすることがある。細かくなればなるほど、この項目については採点できない、ということがあるような気がしている。
吉井委員	それは普通そうなると思う。大体のコンセンサスとしては3を付ける。
平沢委員長	そういう意味で、指定管理の選定の時は、経営するのに明るい専門の方はいましたか？
茂木係長	入ってないです。
平沢委員長	この資料は事務局側で全て作ったのですね。

茂木係長	はい。
平沢委員長	数字的なデータは意外と難しい。この肝心な部分が3になるというのは、評価がぼやけてしまう。この分野について最終的にどう判断するかは非常に難しい。やはり、指定管理選定の時の条件を次回は少し丁寧にご説明いただき、全員で納得しないと難しいと感じた。なので、中小企業経営コンサルタントなどの方が選定に入っていたりすると、そのあたりのデータがあるのですが、ありましたか。
茂木係長	一時審査の段階で、各JVの経営状況の診断は税理士にさせていただいている。実際の審査の場では入っていなかった。
平沢委員長	そのデータも事務局としては掌握しているわけですね。
茂木係長	はい。
平沢委員長	わかりました。どうぞご意見ください。
染谷委員	この評価は1年に1回ということでしょうか。
茂木係長	はい。1年に1回で、指定管理者と区民の皆様公表していきたいと考えている。
染谷委員	やはり今年4月からの実績があると思うが、費用対効果や利用者の意見がどうなっているかを、判断に至る前の評価として並べておかないと、最終的な評価の根拠がないと思う。改善していったからこうなった、のような実績を追っていかないといけないと思うので、短期的なスパンの評価も必要だと思うが、いかがでしょうか。
茂木係長	この案の中には盛り込まれていないが、そういったご意見を聞きながら修正できる部分を盛り込んでいきたい。現状でもアンケートの結果などをお出しして、お示ししていきたいと思う。
染谷委員	わかりました。それから継続的に評価を続ける上で、段階的にどのような評価が行われているのかについて、期ごとの評価を並べると比較がしやすいのではないかと思います。一目でわかるような評価票の方がよいと思う。
平沢委員長	事務局側は、もしお考えがあれば次回ご返答ください。
坂田委員	この評価は、足立区が選定した施設管理者が、足立区が求めた通りにやっています、というような施設管理者を評価するものなのでしょうか。
茂木係長	簡単に言うと、我々が選定した指定管理者が、ここの施設をどれだけ区の要求水準に対して

	運営しているか、という評価だと考えている。
坂田委員	先ほど、当初考えていたものに関して今はどうか、という評価はしなければいけないと思う。例えばコストの面の評価は必要だと思うが、最終的に区民に見せるとなると、区民が見たいのかなという思いがある。自分が区民として評価を見た時に、当初考えていたものと比べるだけの評価だけではなくて、実際に内容がどうだった、利用者の声がどうだった、などの評価もあった方がよいと思う。
茂木係長	説明不足でしたが、評価する 1 つの考え方として、区の要求水準を超えていたということ、それプラス利用者の満足度という視点は事務局としては外せない視点だと思う。
平沢委員長	利用者からの要求なども盛り込みたいので事務局によろしくお願いしたのは、そういう意味です。
坂田委員	区民してみたいものというのは、指定管理者が足立区の求める水準を超えるかどうかよりも、区民が求めるものに対してどうなのか、というところを知りたいと思う。
平沢委員長	区民の中でも、区が要求した水準を満たしたかどうかというのは非常に重要なデータである。
坂田委員	それは重要なのは確かだと思う。例えばコストの面など。
平沢委員長	では、アンケートなども含めたその両面を含めたいということで、皆様確認してよろしいでしょうか。
坂田委員	私もそちらの確認がしたかったということで問題ありません。 またもう 1 点ですが、先ほど鈴木さんからもありましたが、防災や災害などの有事対応について、そのような対策マニュアルなどの危機管理を評価に入れたほうがよいかと感じます。
平沢委員長	その点については、利用者の満足度という形で項目が入るとよいかなと感じます。
吉井委員	足立区の要求が適正なのかどうか、ということも言えると思う。先ほどのお話を聞いていると、足立区の方で要求水準があり、それを越えた、下回ったという形に結論付けると、指定管理者を足立区側が変えようとしたときにここでの議論を使うと思う。それが果たして足立区の要求水準が適正だったかどうかを含めて議論して盛り込めるということであれば、両面から評価を含めることができるということだと思う。やはりこの委員会はそのような方向だと思う。
茂木係長	要求水準書は施設オープン前の我々の計画ですので、皆様のご意見をいただきながら我々もステップアップする必要があると考えているので、今後の改善材料にしたいと考えている。
吉井委員	改善のポイントを提案すればよいということですよ。

平沢委員長	するとやはり、指定管理の選定委員会の時にあった、これが要求水準でよいのかというような議論に関する資料が非常に重要になってきますね。
鈴木委員	何を評価するかを話し合っているが、1回2回では終わらない。そのため、事務局側で次回の委員会時に中間自己評価を出していただき、それをたたき台に我々が議論した方が、回数や期間の短さを考えると、そちらの方がスムーズに進むのではないかと。
平沢委員長	その方が進めやすそうな感じがしませんか？ もしよろしければ、事務局の方が大変だとは思いますが、それをしていただくと非常にスムーズに、責任を果たしやすいというように感じる。
伊東委員	指定管理者に、文化事業の鑑賞型の事業については、一つひとつの事業に対してそもそもの目論見としてどのような目的・収支・集客の計画を立てていたか、そして結果としてそれらの計画を達成できたかどうかというものを数字で出してほしい。それと同時に広報事業も重要なので、事業ごとに、新聞にこんな記事が載った、などの参考資料をつけていただくようにまとめていただきたい。
平沢委員長	事務局側は大変なことと思うが、最初のことなのでこちらは盛り込みましょう。
茂木係長	はい、わかりました。
大谷課長	鈴木委員のご提案は、次回で仮の評価を出すということですか。
平沢委員長	というよりは、事務局側としてどう見ているか、ということですね。
大谷課長	最終的にはご案内したとおり、教育委員会の案として全部の項目に対して評価をしていきたいと考えているが、この度はどういった項目があったら良いかを議論するために会議させていただいたつもりだった。
平沢委員長	私もそのつもりで進めてきていたが、よくよく考えてみると今のお考えには妥当性があると思う。事務局として評価項目をお出しになっているが、これに対する事務局の現段階の評価を出していただいた方が議論しやすいのではないかと、という意見だと伺った。
鈴木委員	そういうことです。
平沢委員長	だとすると、その資料とその他客観的資料に基づいてのご説明があると議論が進むと考えている。ですから、事務局側はこれからしばらく大変なことと思うが、そちらの方が議論を進めやすい。
大谷課長	よくわかりました。

吉井委員	<p>そもそもの話ですが、毎年やるということは区の方で決められたことでしょうか。</p>
茂木係長	<p>はい、そうです。</p>
吉井委員	<p>普通は外部評価の場合はこれほど短い期間ではやらないので、なかなかやりにくいというのが私の率直な感想。委員会の任期を2年いただいたとすると、普通はその2年で、それでもかなり短いと思われるが、例えば大学は7年に1回評価をする中で、短い期間で成果を要求されて評価をするというのは大変だと感じている。1年毎に評価をすると決めているのであれば、仕方が無いこととは思いますが。</p>
大谷課長	<p>区のその他の施設や指定管理施設でも、1年毎の評価を出しているので、スパンが短くて大変なのは申し訳ないが、ギャラクシティでも統一して1年で評価をしたいと考えている。</p>
平沢委員長	<p>自治体によっていろいろであり、指定管理期間に合わせ中間評価を行うところもあるが、ここでは1年毎の評価ということでやっていきましょう。</p> <p>それでは、今日のところは第一読解というところで、様々な見解があるかと思うが、資料をご覧になったのは皆様初めてだと思われます。まずはご自宅にお持ち帰りいただき、次回は大量の資料が出てくることでしょうか、それを踏まえて11月と1月に時間をかけて議論をしたいと思います。そうすると、次回は指定管理の方は逆に必要ないかもしれないですね。ご検討ください。</p>
青木委員	<p>1点ご提案なのですが、小学校PTA連合会で特に足立区の子どもたちが利用させていただいていますので、利用者の満足度について、来る・来ないを含めたアンケートなどの手段を取っていただき、それ以外の他区や他県の方の状況や、安全面の状況も含めたいろいろな意見を集められないか。保護者から、子どもから様々な意見が出てくると、また1つ方向性が出てくるかもしれない。</p>
平沢委員長	<p>今のご意見も是非ご勘案いただきたいと思います。アンケートの結果が指定管理者の評価になるというわけではなく、それを踏まえて区の方針はどうなのかという参考にもなると思うので、できる限りそんなデータも集めていただきたいと思います。要求が多く、事務局側は非常に大変と思うが、我々も一生懸命やりますので協力してやっていきましょう。</p> <p>他にご意見がなければ本日はこれで終了といたします。</p> <p>&lt; 5 . 次回の日程調整 &gt;</p> <p>各委員と事務局調整の結果、次回開催日は11月27日(水曜日)午前10時からわーくしょっぷスタジオで開催に決定。</p> <p style="text-align: right;">以上</p>